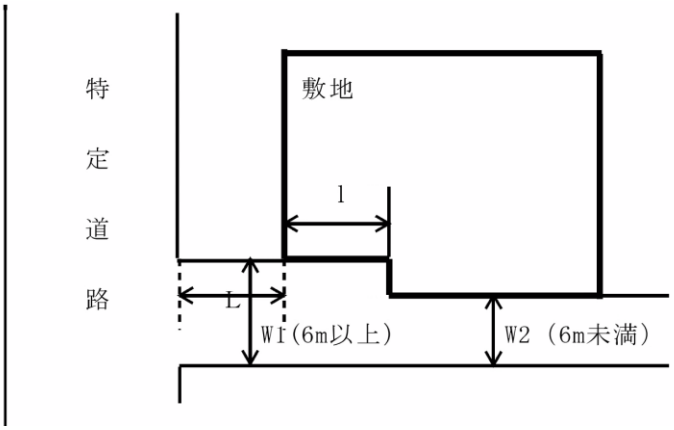
法第５２条（容積率）

特定道路に接続する前面道路に接する敷地の容積率の割増し

法第５２条第６項の規定による特定道路に接続する前面道路に接する敷地の容積率の割増しは、次による。

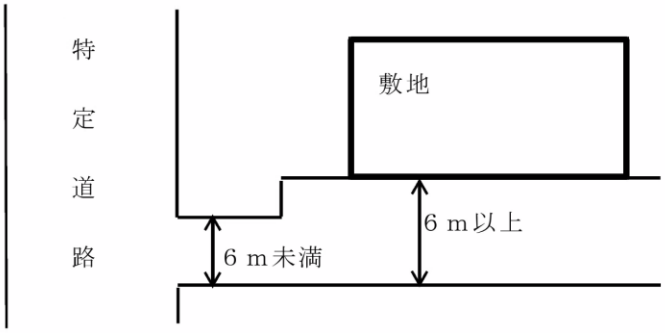
１．前面道路幅員等の条件

① 連続して必要接道長（※参照）以上敷地が接する前面道路の部分の幅の最小値が、６ｍであること。（以下、この前面道路の部分を「必要接道部分」という。）

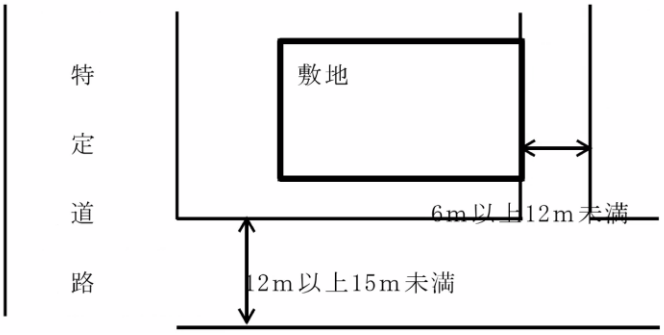


ｌが必要接道長以上あればＷｌをＷｒとして適用する。
なお、特定道路からの距離はＬとなる。

② 当該必要接道部分から特定道路（法第５２条第６項の特定道路をいう。）までの間にある道路部分（以下「接続部分」という。）の幅員の最小値が、６ｍ（接続部分が２以上ある場合は、１以上の接続部分の幅員の最小値を６ｍとし、幅員の最小値が１２ｍ以上１５ｍ未満のものを含む。）であること。



法第５２条第３項は適用されない。

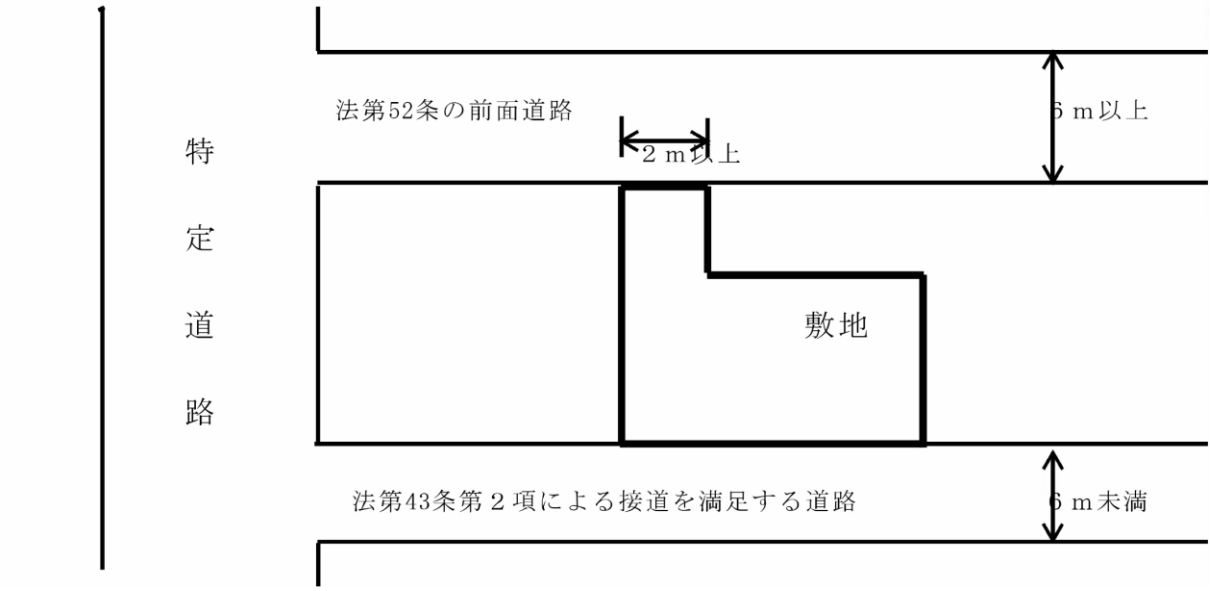


法第５２条第３項は適用される。

③ ②を満たす接続部分の延長が７０ｍ以下の道路（以下「接続道路」という。）が１以上あること。

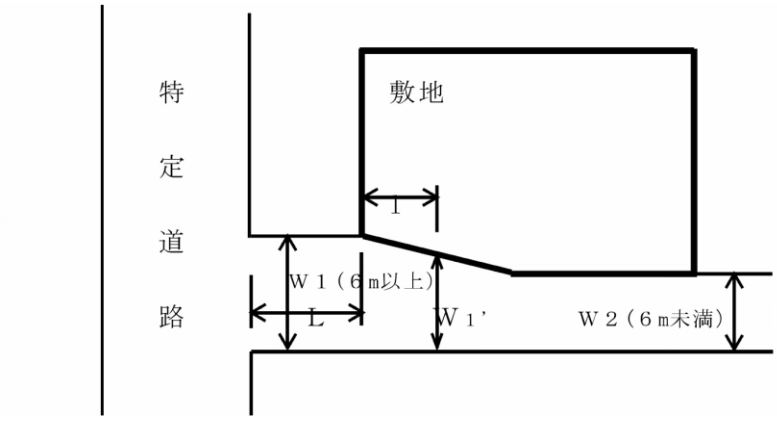
※　必要接道長の定義

岐阜県建築基準条例により敷地が道路に接しなければならない幅の規定がある敷地にあってはその規定による幅を、その他の敷地にあっては２ｍをいう。ただし、前面道路が２以上ある場合にあっては、少なくとも１の前面道路について岐阜県建築基準条例に規定する敷地が道路に接しなければならない幅が確保されているものとする。



２．前面道路の幅員（Ｗｒ）のとり方

必要接道部分の最小値をＷｒとする。（Ｗ　1’≧６ｍのとき、Ｗ　1’＝Ｗｒ）

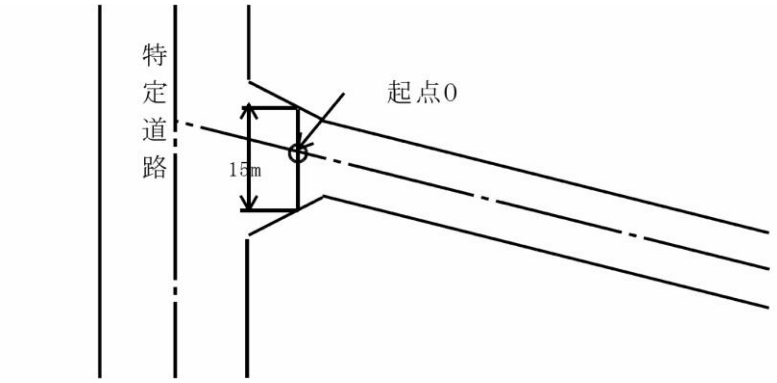


1が必要接道長であるときのＷ１’を幅員とし、Ｗ１’が６ｍ以上であれば適用する。

なお、特定道路からの距離はＬとなる。

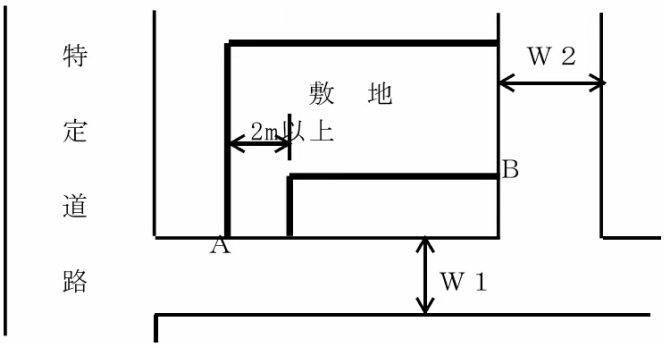
３．接続道路の延長（Ｌ）の取扱い

特定道路と接続道路とが斜めに交差し、当該交差部分にすみ切りがある場合は、接続道路の延長の起点は次図による。



４．法第５２条第１項の規定の幅員にみなされる数値の算定

必要接道部分ごとのＷｒとその接続道路の延長Ｌとにより算定されるＷａをＷｒに加えた数値のうち、最大の数値とする。

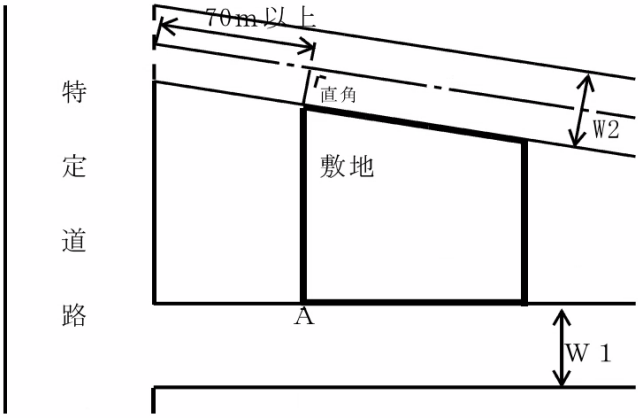


・特定道路からＡまでの距離により定まる数値：W_{a1}

・特定道路からＢまでの距離により定まる数値：W_{a2}

∴　前面道路幅員による容積率制限（W_1+W_{a1}）と（$W1+W_{a2}$）のいずれか大きい方で行う。

（注）W_2を容積率制限において前面道路の幅員として扱っている場合



・特定道路からＡまでの距離により定まる数値：W_a

∴　前面道路幅員による容積率制限（W_1+W_a）とW_2のいずれか大きい方で行う。（WaはW_2に加えることは出来ない。）

（注）W_2を容積率制限において前面道路の幅員として扱っている場合